



最優秀賞



昨年から取り入れたアイガモ農法の「主役」を持って集まってくれた子供たちと。後方に見えるのは阿蘇山

泊があり、予想以上の成果にみんなびっくり。「これからのリゾートのひとつのあり方では」と実感したのです。

「奥阿蘇でんぐ隊」は、グリーンツーリズムを具体化したひとつの手法。もともとはヨーロッパに見られるものですが、それを日本風土にあつたものにアレンジしたつもりです。お互いの立場を理解しながら、日本農業、特に中山間地農業の生き残りを模索する、そんな情報交換の場でもあります。

それまで消費者との交流が少なかった家庭では、都会の、しかも見ず知らずの人が突然宿泊することに、お年寄りや奥さんはいささか戸惑い気味でした。しかし、自慢の漬物が喜ばれたり、都会では体験できない田舎の良さを聞かされたりすると不安もなくなり、この活動に理解を示していただくようになりました。

「水がおいしいですね」「星がこんなにたくさん見えるなんて」「久しぶりにいい汗流しました」と、宿泊客は新鮮な感動を語ってくれました。また、これをきっかけに、隊員の日常の家庭の会話も、隣人の噂話などに終始していたものが、夢のある幅の広い会話へと変わり、家庭に新鮮な風が吹き込んだようです。

しかしながら問題もあります。トイレです。都会の人、特に婦人や子供は、昔ながらの田舎のトイレは苦手のようです。農家の後継者不足・嫁不足の原因は、このへんにもあるよ